

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：看護学科

資格：助教

氏名：工藤 大祐

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	点眼動作 点眼姿勢 点眼法 動作解析
学位	最終学歴
看護学（博士）	武庫川女子大学大学院看護学研究科博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 老年看護学実習	2020年5月～現在	実習病棟は地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟、整形外科を中心とした病棟であったため、対象者の看護における学生指導を行った。老年期の特徴を踏まえ学生自身が看護を考え実践できるように、臨床指導者と一緒に看護ケアを実践できる環境作りを行った。また、カンファレンス等では意見が自由に言えるような環境作りに努めた。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 臨床工学技士免許	2011年4月～現在	
2. 看護師免許	2008年4月～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 公立学校共済組合近畿中央病院 臨床実習指導者	2015年4月から2019年3月	近隣の看護大学、看護専門学校の学生を受け入れ、基礎看護学実習、老年看護学実習、成人看護学実習、統合看護学実習における臨床実習指導を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 椅子の背もたれを使用した高齢者の安全・安楽な点眼姿勢の検討-点眼動作および点眼姿勢の検証と看護師の点眼指導の実態調査から-(博士学位論文)	単	2021年3月	武庫川女子大学大学院	高齢女性20名を対象に椅子の背もたれの有無で点眼をしてもらい、点眼の成否要因に関する検証実験を行った。点眼動作の動作解析より、点眼時の頭部後傾角度、肘関節角度、体幹後傾角度、点眼容器角度を測定し、背もたれの有無と点眼薬滴下の位置ずれ、点眼の成否を比較した。加えて、我が国の厚生労働省の指定がある特定機能病院および全国自治体病院協議会の登録病院で眼科診療科を標榜に掲げ、眼科病棟を有している438施設を選定し、点眼指導の経験がある眼科病棟に勤務する看護師1名を対象に無記名自記式の質問紙による実態調査を行った。 椅子の背もたれを使用する点眼姿勢は、背もたれが体幹を支持し頭部の後傾不足を補うこととなり、点眼時の点眼容器先端への接触や点眼薬滴下の位置ずれによる失敗リスクが軽減できる。背もたれを使用する点眼姿勢は高齢者にとっても安全・安楽な姿勢であるため、点眼指導に取り入れることが可能であることが示唆された。また、点眼指導の質問紙調査では、点眼指導時の点眼姿勢は、「ベッドでの端座位」と「仰臥位」が多く、頭部後傾が困難である高齢者の場合に失敗のリスクが考えられた。さらに、点眼指導の内容を「成人」と「高齢者」で区別していない施設の数ほぼ同数であ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 点眼薬を確実に与薬するための動作要因の検討(修士学位論文)	単	2019年3月	武庫川女子大学大学院	り、高齢者向けの指導の必要性が示された。また、高齢患者や独居の患者の増加、認知機能障害がある患者の場合、在宅での点眼管理に関して看護師は困難感を抱いていたことから、高齢者の状態に即した指導を行う必要があると考えられた。 日常生活動作が自立している健常者の20歳代の男女と60～80歳代までの男女を対象に普段行っている点眼方法で人工涙液を用いて点眼をもらった。点眼動作をビデオカメラで撮影し、撮影動画を動作解析ソフトを使用し、頸部後屈角度、肘関節角度を測定した。若年者と高齢者、成功と失敗、および不潔動作の有無を比較した。頸部後屈角度の後屈が不十分であると失敗要因の視点の一つとして考えるのが良いことが示唆された。
3 学術論文				
1. 高齢者の点眼失敗要因に着目した椅子の背もたれ使用による点眼姿勢の比較 《査読付き》	共	2022年5月1日	バイオメカニズム学会誌 46(2) p. 95-103	本研究の目的は、高齢者の普段の点眼姿勢の実態および、点眼時の椅子の背もたれ使用の有無と点眼成否との関係性を明らかにすることである。研究方法は、高齢者の普段の点眼姿勢の実態調査に加え、高齢女性に背もたれの有無で点眼を行ってもらい、点眼動作の動作解析を行った。動画より、点眼時の頭部後傾角度、肘関節角度、体幹後傾角度、点眼容器角度を測定し、背もたれの有無と点眼の成否、点眼液滴下の位置ずれを比較した。背もたれ無しでは、失敗事例で有意に頭部後傾角度が小さく、背もたれを使用すると点眼時に体幹が後傾し頭部が後傾しやすくなり、点眼時における滴下の位置ずれや点眼容器先端との接触による失敗リスクの軽減が望めた。背もたれを使用した点眼姿勢は安全で実施しやすい方法であり、点眼指導に取り入れることが可能であると言える。 本人担当部分：研究計画、実験・分析方法の検討、実験実施、データ分析等を担当。
2. 若年者および高齢者の自己点眼の成功・失敗に関する動作要因 《査読付き》	共	2020年5月	看護人間工学会誌 2019(1) 25-30	共同発表者：工藤大祐 徳重あつ子 片山恵 田丸朋子 岩崎幸恵 自己点眼の失敗要因を動作の観点から明らかにし、投薬するための看護援助への示唆を得ることを目的に、若年者と高齢者に点眼をもらった。点眼動作をビデオカメラで撮影し動作解析ソフトを使用し、頸部後屈角度、肘関節角度を測定した。若年者と高齢者、点眼の成功と失敗、不潔動作の有無をそれぞれ比較した。点眼では高齢者の失敗が多く、頸部後屈角度が70度未満であると点眼が失敗するリスクがあることが明らかとなった。 本人担当部分：研究計画、実験・分析方法の検討、実験実施、データ分析等を担当。 共同発表者：工藤大祐 片山恵 徳重あつ子 阿曾洋子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 高齢者の点眼失敗要因に着目した椅子の背もたれ使用の効果についての検証	共	2020年12月5日	バイオメカニズム学会学術講演会	日常生活動作が自立している健常者の70歳代の女性を対象に椅子の背もたれ使用の有無で人工涙液を用いて点眼をもらった。点眼動作をビデオカメラで撮影し、撮影動画を動作解析ソフトを使用し、頸部後傾角度、肘関節角度、体幹後傾角度、点眼容器角度を測定した。背もたれを使用すると点眼時に腰部が伸展することで体幹が後傾しやすく、さらに点眼容器と眼が水平になりやすいため点眼容器先端との接触による失敗リスクの軽減が望める示唆が得られた。 本人担当部分：研究計画、実験・分析方法の検討、実験実施、データ分析等を担当。
2. 自己点眼の成功・失敗に関連する動作の実態	共	2019年11月9日	看護人間工学会学術集会	共同発表者：工藤大祐 徳重あつ子 片山恵 岩崎幸恵 自己点眼の失敗要因を動作の観点から明らかにし、投薬するための看護援助への示唆を得ることを目的に、日常生活動作が自立している健常者の20歳代の男女と60～80歳代までの男女を対象に普段行っている点眼方法で人工涙液を用いて点眼をもらった。点眼動作をビデオカメラで撮影し動作解析ソフトを使用し、頸部後屈角度、肘関節角度を測定した。若年者と高齢者、点眼の成功と失敗、不潔動作の有無をそれぞれ比較した。点眼では高齢者の失敗が多く、頸

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
				<p>点眼後屈角度が70度未満であると点眼が失敗するリスクがあることが明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：研究計画、実験・分析方法の検討、実験実施、データ分析等を担当。</p> <p>共同発表者：工藤大祐 片山恵 徳重あつ子 阿曾洋子</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 教育講演 気軽に実験しませんかpart③「看護技術における実験研究のひろがり」看護実践へ活かす実験研究による基礎研究への取り組み	共	2022年9月23日	看護人間工学会学術集会（大阪）	<p>教育講演として、気軽に実験しませんかpart③「看護技術における実験研究のひろがり」 session1「看護実践へ活かす実験研究による基礎研究への取り組み」について担当した。</p>
6. 研究費の取得状況				
1. 手指巧緻性と成功失敗要因から検証する高齢者に適した点眼支援	共	2023年4月	科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号 (23K10363)	<p>研究代表者 点眼は眼科領域特有の治療法である。看護師は在宅でも点眼が行えるように患者に点眼指導を行っているが、高齢患者は点眼を失敗していることが多い。高齢者では手指巧緻性が低下し、点眼容器から薬剤を適切な位置で1滴滴下することが困難になっていると考えられる。そこで、本研究は、点眼時における高齢者の手指巧緻性の視点で点眼の成功・失敗の傾向を分析し、高齢者の看護支援への示唆を得ることを目的とした。</p> <p>分担：徳重あつ子 片山恵 岩崎幸恵 野呂影勇</p>
2. 人間工学的視点から見た高齢者の自己点眼技術獲得への看護支援の検討	単	2020年10月	科学研究費補助金（研究活動スタート支援） 課題番号 (20K23211)	<p>点眼は局所的に高濃度で投薬ができる眼科領域での主要な治療法となっており、若年者から高齢者まで一般的に使用されている。眼科疾患は加齢性疾患が多くを占めるため、高齢患者は自立して的確に点眼手技を習得する必要があるが、高齢患者の中には点眼薬が眼内に確実に滴下されない、点眼容器先端が結膜や睫毛に接触しているなど誤った点眼手技によって治療効果が期待できない人がいると推察できる。しかし、なぜ点眼を正確に行うことができないのかは明らかにされていない。そこで本研究は、点眼姿勢、点眼動作、点眼法の視点から点眼の成否要因を明らかにし、点眼薬を高齢者自身で投薬するための評価視点への示唆を得ることを目的とした。</p>
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2022年11月～現在		日本看護科学学会		
2. 2022年11月～現在		日本看護研究学会		
3. 2022年4月～現在		看護学部「まちの保健室」事業 プロジェクトメンバー		
4. 2019年11月～現在		看護人間工学会		